

日本語と韓国語の副詞の対照研究

－‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’を中心に－

金慶恵*
kimkyounghye@hanmail.net

＜目次＞

- | | |
|-------------------------|------------------------------------|
| 1. はじめに | 4. ‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’の対照 |
| 2. 先行研究 | 分析 |
| 2.1 ‘全然(zenzen)’について | 4.1 出現する文体の差 |
| 2.2 ‘전혀(cheonhyeo)’について | 4.2 呼応する述語形式 |
| 3. 調査データの採集法 | 4.3 呼応する述語の種類 |
| | 5. まとめ |

主題語: 全然(zenzen), 전혀(cheonhyeo), 対照(contrastive), 呼応(correspond), 述語(predicate)

1. はじめに

外国語学習において、目標言語を母語話者並みに話すためには学習者の母語と目標言語の共通点と相違点とを相互理解することが重要である。その共通点と相違点を含む言語の特性を研究する分野が対照言語学である。石綿・高田は対照言語学について、

対照言語学は言語と言語の対照研究を通じてそれぞれの言語の特性を明らかにし、また言語の本質を考えようとする言語学の一分野である。その発達は、多くの場合、外国人教育や外国人への教育の場で生じる問題を基盤としてきた。したがってその研究成果は外国人教育で利用されてきた。¹⁾

と、対照言語学の研究成果が外国語教育の場で適応されてきたことを述べている。本稿では、日韓対照研究の一環として、副詞のうち、これまであまり取り上げられたことのない

* 仁川大学校 師範大学 日語教育科 教授

1) 石綿敏雄・高田誠(1990)『対照言語学』おうふう、p.1

日本語の‘全然(zenzen)’と韓国語の‘전혀(cheonhyeo)’を対照分析し、日本語教育の現場で適用できるようにしたいと思う。

日本語と韓国語の情態副詞の中で、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’は否定表現と呼応する点で類似していて、意味領域に共通部分があり、逐語になりやすい副詞であると言える。両副詞が逐語になることは辞典の記述からも分かることで、『朝鮮語大辞典』(昭和 61:2055)では、‘전혀(cheonhyeo)’について、以下のように記述している。

전혀(全一)(副詞)(否定文に用い)全く、完全に(완전히)、全然(전연)、とても、ちっとも、まるっきり、到底(도무지)、皆目、さっぱり、てんで

上記は、‘전혀(cheonhyeo)’に対応する日本語の副詞を羅列していて、意味用法における対応関係や働きなどの関係は指摘されていない。そして、両副詞に関する詳細な研究は管見の限りない。逐語訳になりやすいという漠然とした類似関係は客観性に欠けているので、データによる明確な対応関係を明らかにすることは意義のあることであると思う。

本稿は、日本語の‘全然(zenzen)’と韓国語の‘전혀(cheonhyeo)’が現れる文の文体や呼応する述語の分析を通して、それぞれの副詞の特性と対応関係を明らかにし、類似関係にあることを具体的に提示することを研究目的とする²⁾。

2. 先行研究

2.1 ‘全然(zenzen)’について

2.1.1 辞典類

『日本国語大辞典第二版』(2001:108)では、‘全然(zenzen)’について、以下のように記述している。

ぜんぜん【全然】 ⊖ [形動タリ]余すところのないさま。全くそうであるさま。
⊖ [副] ① 残るところなく。すべてにわたって。ことごとく。

2) ‘전혀(cheonhyeo)’の用例は既に検証されている金(2014)のものを引用している。

- すっかり。全部。(初出1823)
 ②(下に打消を伴って)ちっとも。少しも。(初出1905)、
 ③(口頭語で肯定表現を強める)非常に。(初出1950)

‘全然(zenzen)’の副詞用法は、時代的に、①は初出が1823年で一番早めに現れ、②は初出が1905年、③は初出が1950年と、①→②→③の順で現れたことが分かる。また、『基礎日本語辞典』(1989:494-495、886)では、‘さっぱり’と‘なんら’の関連語として‘全然(zenzen)’を挙げ、「全然(zenzen)は「さっぱり」と違って、消滅や出現しない状態のみならず広く否定表現に係り、打ち消す気持ちを強調し、否定を客観的に強め、その動作や状態がほんの僅かも成立しないゼロの状態をいい、「ドアが全然(zenzen)しまらない」は開いたまま微動もしない、もしくは、1ミリもしめることができない状態である」と述べている。また‘なんら’の関連語として‘全然(zenzen)’を取り上げ、「なんら」は主体が、ある特定の対象・相手から、または対象・相手に対して、行為や作用を受けたり及ぼしたりすることが全くない状態を指す」と指摘し、‘全然(zenzen)’も「否定を客観的に強める語で、動作・作用・状態がほんの僅かも成立しないゼロの状態をいう」と述べている。しかし‘全然(zenzen)’は「主体-対象間の行為・作用にかぎらず、「雨は全然(zenzen)降らない」「電車が全然(zenzen)こない」「気温は全然(zenzen)上がらない」のように、対象を前提としない状態・動きにも使える」としている。さらに、「なんら」と置き換えが可能なのは、主体と状況が関わりを持っている場合や話し手が関連していると意識している事態、「私は全然(zenzen)暑いと思わない」「全然(zenzen)返事がない」「全然(zenzen)手応えがない」のような場合である」と述べている。

『日本国語大辞典第二版』には‘全然(zenzen)’の意味用法は記してあるが、副詞用法の変遷の流れに焦点が置かれていて、類義語としては‘さっぱり’を提示しているだけであるが、『基礎日本語辞典』のほうは多様な意味関係を提示しているところから‘全然(zenzen)’の意味特徴が窺える。

2.1.2 論文類

‘全然(zenzen)’に関する研究物は多数あるが、特徴的なものとして、梅林(1995)、野田(2005)、服部(2007)と(2011)、丁(2008)、佐野(2012)が挙げられる。

梅林(1995)は、<「全然(zenzen)…否定的」は規範的でない>という意識は昭和10年代末から20年代末の間に発生したが、使用されていた事実から用法の実態や妥当性に合致するものではないとしている。‘全然(zenzen)いい」などを問題視する意識が‘全然(zenzen)…否定的’

にまで及んだため、‘全然(zenzen)…否定的’に該当する個々の存在感が乏しかったためであると述べている。

そして、野田(2005)は、副詞と否定の呼応と関連して注意すべき3点を述べ、そのうち、1)の例を挙げ、「否定と呼応する副詞の一部は‘ない’による否定の形でなくても否定的な意味・性質を持つ述語を共起することがある」とし、‘全然(zenzen)’は「否定的な文脈に支えられて肯定形と共起する用法も広まりつつある」としている。

1) 全然{違う/だめだ/平気だ}(野田春美:2005:120)

また、服部(2007)は、朝日新聞データ1991-1998年版とYahoo!知恵袋の2種類のコーパスを用い、‘全然(zenzen)’と共起する述語類、明示的比較形式の有無、回答の冒頭の文の第一語について分析をし、否定形式との共起は新聞より知恵袋の方がその種類が多く、明示的比較形式を伴うことが一番多いのは‘良い’であり、知恵袋の回答における冒頭語としての‘全然(zenzen)’が一番よく用いられる述語は‘大丈夫’であることを明らかにしている。

丁(2008)は、否定副詞決して/とうてい/全然(zenzen)/少しも/一向に/さっぱり/なかなか/あまりが現れる文を文法的・語彙的な否定表現に分けて、それぞれにおける共起制限とその要因について分析を行っている。丁(2008)は‘全然(zenzen)’について、

話し手の考えや判断の中の肯定的な価値や一般常識による客観的な基準が、実際の事件や状況と相反することを表し、自分の主張や論の展開に説得性をもたせる。また、ある事態が一切起きない、あるいは起こることがないという、行為の停止、能力の不能を表すこともある。丁(2008:42)

と述べ、否定構文‘名詞+ではない’と共起制限を持つと述べている。

それに、服部(2011)では、『国会会議録』を利用して話者の出生年代と発話時期に基づき、‘全く’と‘全然(zenzen)’の否定辞共起率の推移を発話者の出生年代によって区分し、その推移を比較している。‘全く’は単純な上昇傾向が見られるが、‘全然(zenzen)’の場合、1880年以前の生まれの話者で目立って値が低く、発話年代と話者の両者の傾向としては単純な増減傾向は見られないと述べている。

佐野(2012)は、『日本語話し言葉コーパス』を用い、‘全然(zenzen)’の変化を他の表現との共起関係における文法変化として捉え、その変化の様相を定量的に分析し、‘全然(zenzen)’

と呼応する表現により、1)否定辞、2)伝統形、3)革新形に分類し、それぞれの使用実態・経年変化、及び様々な要因が持つ変化への影響とそれらの相互作用を検証している。

2.2 ‘전혀(cheonhyeo)’について

2.2.1 辞典類

『朝鮮語大辞典』(昭和61:2055)では、‘전혀(cheonhyeo)’について、

전혀(全一)(副詞)(否定文に用い)全く、完全に(완전히)、全然(전연)、とても、ちっとも、まるっきり、到底(도무지)、皆目、さっぱり、てんで

のように記述している。上記の記述は‘전혀(cheonhyeo)’の意味特徴が述べられていないため、意味用法が分かりにくく、否定の意味を持つ表現と共に使われることと類義関係にある語彙の確認にとどまっている。

2.2.2 論文類

‘전혀(cheonhyeo)’に関する研究物は数少ないが、徐(2006)、Yang(2008)、金(2014)の研究がある。

徐(2006)は、‘特殊程度副詞語’の項目で2)と3)を挙げ、‘전혀(cheonhyeo)’は、否定表現と呼応し、否定の程度を強化したり極大化する「否定の極語」であると述べている。

- 2) 김 씨는 돈을 전혀(cheonhyeo) 안 받았다. (徐正洙2006 : p.861)
3) 서 씨도 돈을 전혀(cheonhyeo) 주지 않았다. (徐正洙2006 : p.861)

また、4)のように否定文とよく呼応するが、‘다르다’とは肯定文でも呼応すると指摘し、5)のように特定の用言である場合は、肯定表現とも呼応すると述べている。

- 4) 그이는 내 말을 전혀(cheonhyeo) {못 알아듣는다/모른다}. (徐正洙2006 : p.861)
5) 그 두 사람의 말은 a. 전혀(cheonhyeo) 안 같다. (徐正洙2006 : p.967)
b. 전혀(cheonhyeo) {다르다/틀리다}.
c. 전혀(cheonhyeo) 이상하다.

また、Yang(2008)は、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’について、近・現代小説やシナリオを用いて変遷過程を述べながら被修飾語を分類・分析して、その意味用法について、肯定と否定表現との呼応は自由であるものの、否定表現との呼応が強くなってきたと述べている。また、‘전혀(cheonhyeo)’の意味が含まれていたが、この意味は‘오로지(oroji)’に吸収され、辞書における‘전혀(cheonhyeo)’と否定表現との呼応に関する言及は2000年以降になって全ての辞書に現れたと述べているが、呼応する述語の検討からの結論ではない。

しかし、徐(2006)とYang(2008)では、‘전혀(cheonhyeo)’について、否定表現とよく呼応すると述べてはいるが、呼応する述語については詳しく述べていない。特定の用言の場合は肯定表現と呼応すると言っているが、特定の用言についても詳しく示していない。しかし、金(2014)は、‘전혀(cheonhyeo)’と‘さっぱり’との対照研究で、意味領域、出現傾向、呼応する述語の形式と述語の種類について分析し、①‘전혀(cheonhyeo)’は‘さっぱり’に比べて肯定表現に多く現れ、②文体的には‘さっぱり’より‘전혀(cheonhyeo)’が書き言葉的であり、また、③‘전혀(cheonhyeo)’は‘動詞+否定辞’、‘名詞+否定辞’の順に呼応し、④‘名詞+없다(eoptta)’と呼応することを明らかにしている。

‘全然(zenzen)’については、以上のように、さまざまな観点から研究が行われてきたが、分析において、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’を対照にしたものは、意味用法について考察したYang(2008)以外は見られない。

本稿では、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’について、意味用法に限らず、多様なジャンルにおいて呼応する述語の出現傾向を通して、文体の差を明らかにし、また、呼応する述語の分析から両副詞の特性を明らかにし、類似関係を具体的に明かすことを研究目的とする。

3. 調査データの採集法

‘全然(zenzen)’の検索は、日本の国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Contemporary Corpus Written Japanese)』(以下、BCCWJと称する。)を用い、オンライン上の『中納言』から抽出した。検索は短単位検索を行い、抽出の際、<全然(zenzen)>、<ぜんぜん>、<ぜんぜん>をキーワードにした。BCCWJには、‘書籍’‘ベストセラー’‘雑

誌‘知恵袋’‘新聞’など、さまざまなサブコーパスが存在する。文体の差の分析においてはさまざまなサブコーパスを使用し、呼応する述語の分析は、‘書籍’と‘ベストセラー’のうち、‘文学’ジャンル³⁾に現れる‘全然(zenzen)’のみを分析対象とする。抽出の結果890例が現れたが、6)7)8)9)のように、‘全然(zenzen)だ’で文が終わる用例3例と、‘全然(zenzen)’と呼応する述語が省略されている用例69例を除き、818例を分析対象とする⁴⁾。

- 6) 「あんた、やっぱ最初の時よりキレがなくなってきたぜ? 右肩の動きが悪い。それに、自慢のスピードが全然(zenzen)だ。最初のほうが、速かったぜ?」
(PB49_00246『永久駆動パペットショウ』2004)
- 7) 「しかし、四、五日では、アフリカには行けないでしょう? どこに、行っていたんですか?」「それが、何か、いけないことなんですか?」「いや、ぜんぜん(zenzen)。しかし、殺人に関係があれば別ですよ。」
(OB3X_00205『急行もがみ殺人事件』1987)
- 8) 「だけど、見ていたのは驚宮が考えているのとは、全然(zenzen)別の方向で…。あの凶入りのマニュアルどおりにされるなら、あれがあそこに…。」
(PB49_00252『恋におちた若様』2004)
- 9) 「おじさん冷たくなった?」「全然(zenzen)」おじさんの愛情が、妻Aから愛人Bに移動したら、おじさんにとって妻Aは、うっとろしい存在になる。(PB29_00103『ラクになる』2002)

一方、‘전혀(cheonhyeo)’に関する調査データは、韓国の国立国語研究院の말뭉치(malmungchi)⁵⁾を用いる。検索の結果、1,654例が抽出されたが、말뭉치(malmungchi)には、‘新聞’‘雑誌’‘文学’、また、ジャンルが不明なものが属していて、‘新聞’の318例(19.2%)、‘雑誌’の92例(5.6%)、その他のジャンルの545例(32.9%)を除き、‘文学’ジャンルの699例(42.3%)を分析対象とする⁶⁾。

3) ‘書籍’と‘ベストセラー’には、‘0総記、1哲学、2歴史、3社会科学、4自然科学、5技術・工学、6芸術・美術、8言語、9文学、分類なし’というジャンルが入っている。

4) ‘地の文’と‘会話文’における出現傾向の分析においては、‘全然(zenzen)だ’で終わる4例は除き、887例を用いて分析した。

5) <http://www.korean.go.kr/09.new/dic/example/simplesearch.jsp> 簡単検索で検索した(2014年4月5日参照)。

6) 金(2014:7)で用いた用例であり、金(2014)の第3章の記述内容から一部を借りる。

4. ‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’の対照分析

4.1 出現する文体の差

ここでは、‘地の文’と‘会話文’における‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’の文体について分析する。まず、‘全然(zenzen)’の文体については、BCCWJにおけるさまざまなジャンルでの出現傾向を通して明らかにしたい。以下、<表1>はBCCWJの出現傾向をまとめたものである。

<表1> BCCWJに現れる‘全然(zenzen)’の出現傾向

サブコーパス	全然(zenzen)		BCCWJ	
	頻度	比率	語数	比率
新聞	16	0.3%	1,370,233	1.3%
雑誌	237	4.1%	4,444,492	4.2%
書籍	2,253	38.7%	58,930,149	56.2%
白書	9	0.2%	4,882,812	4.7%
ベストセラー	244	4.2%	3,742,261	3.6%
知恵袋	1,501	25.8%	10,256,877	9.8%
ブログ	1,190	20.5%	10,194,143	9.7%
国会会議録	348	6.0%	5,102,469	4.9%
広報誌	8	0.1%	3,755,161	3.6%
教科書	9	0.1%	928,448	0.9%
韻文	2	0.0%	225,273	0.2%
合計	5,817	100.0%	104,911,464	100.0%

<表1>を見ると、‘全然(zenzen)’は‘知恵袋’と‘ブログ’を合わせて46.3%で、やや多く出現し、‘新聞’と‘白書’にはやや少なく現れる。‘地の文’と‘会話文’における詳細な出現傾向は分類していないが、‘書籍’を除いたさまざまなジャンルにおける‘全然(zenzen)’の出現傾向は、やや話し言葉的な傾向があると言えそうである。引き続き‘전혀(cheonhyeo)’の文体について見ると、말뭉치(malmungchi)のジャンル別出現傾向は<表2>のようにまとめることができる。

<表2> 말뭉치(malmungchi)に現れる‘전혀(cheonhyeo)’の出現傾向)

ジャンル	頻度	比率
新聞	318	19.2%
雑誌	92	5.6%
文学	699	42.3%
その他	545	32.9%
合計	1,654	100.0%

<表2>を見ると、‘文学’に現れる出現傾向からは‘전혀(cheonhyeo)’もやや話し言葉的な傾向があると言えそうだが、‘文学’には‘地の文’と‘会話文’という文体が混じっているため、文体の違いを明らかにするために、‘地の文’と‘会話文’における出現傾向を確認する必要がある、<表3>のように、‘地の文’と‘会話文’における‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’の出現傾向をまとめた。

<表3> ‘地の文’と‘会話文’での出現傾向

	전혀(cheonhyeo)		全然(zenzen)	
	頻度	比率	頻度	比率
地の文	622	89.0%	364	41.1%
会話文	77	11.0%	523	58.9%
合計	699	100.0%	887	100.0%

以上の調査結果から、‘全然(zenzen)’は‘会話文’に58.9%が現れて、11.0%が現れた‘전혀(cheonhyeo)’に比べて出現頻度が高く、‘전혀(cheonhyeo)’より‘全然(zenzen)’のほうがより話し言葉的で、‘全然(zenzen)’より‘전혀(cheonhyeo)’のほうがより書き言葉的であるということが分かった。この結果から、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’は逐語訳が可能である場合でも文体の相違はあり得るということが分かった。

7) <表2>は金(2014:159)の<表1>を引用したものである。말뭉치(malmungchi)を具体的に下分類していないので、BCCWJと一対にはならない。

4.2 呼応する述語形式

‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語形式について、まず、‘全然(zenzen)’と呼応する述語から分析する。‘全然(zenzen)’と呼応する述語を否定形と肯定形に分け、さらに、それぞれの形式に現れる述語の種類を品詞別に分けて表にまとめたものが<表4>である。<表4>において、‘省略’というのは、10)11)のように、‘全然(zenzen)’と呼応する述語が省略されたものである。文脈上、10)と11)は、相手の質問などに対する否定的な答えで、再現も可能であるが、判断する人によりその再現に違いが生じる可能性もあるため、ここでは再現せず、‘省略’という別の項目に入れてカウントした。

- 10) 「昨日の夜…沢美鈴という…神奈川県警の警部補が誘拐された。そのことでわれわれは捜しているのだが、あんたは、彼女は今、どこにいるか知っているだろう。それを言って欲しいんだ」「そんなの、全然(zenzen)…」と、香織は言った。

(LBo9_00232『大阪殺人旅愁』2000)

- 11) 「それで被害は…」高宮は里見のジャケットに眼をやった。「いえ、別になにも」里見は言った。「犯人は何人?」「五人いました」「目出し帽かなにか、かぶってた?」「いいえ、全然(zenzen)」「素顔のまま?」

(LBr9_00179『天皇家伝説』2003)

<表4> ‘全然(zenzen)’と呼応する述語形式

述語形式		頻度	比率
否定形	動詞	439	49.5%
	形容詞	46	5.2%
	名詞	125	14.1%
肯定形	動詞	109	12.3%
	形容詞	30	3.4%
	名詞	69	7.8%
省略		69	7.8%
合計		887	100%

<表4>から、‘全然(zenzen)’と呼応する述語の形式は否定形の場合も肯定形の場合も後に来る品詞は、12)15)のような動詞、13)16)のような名詞、14)17)のような形容詞の順で現れることが分かる。

- 12) 「四月十八日の十時半ごろ、通称トクという男と会っていたということは、警察にいわなかったんですか」「はい。そうです」「なぜ、いわなかったの」「まあ、その時点じゃ全然(zenzen)わかりませんでしたから。さっきもいったように事件の時間等をです、トクさんと会った時間…」 (LBk9_00269『推定有罪』1996)
- 13) だから坂口安吾のように「この社会はダメな墮落した人間の集まり」と考えて、そのダメさにどうにか歯止めをかけつつ、気の遠くなるような根気強さで臨機応変にやっていこうよ、みたいなのが、私のイメージのなかではかなりしっくりくる。「それって、ぜんぜん建設的じゃないですね」とか「それじゃ今とまるで変わらないじゃないですか?」と、学生さんからは呆れられた。 (LBs9_00276『ほつれとむすばれ』2004)
- 14) 「その七?。秘密の花園?。花園学園で?、秘密の花園をみつけたカップルは?、永遠に結ばれる?」なに?それが七不思議の七番目?ぜんぜんこわくないし、意味がわからんわー。 (LBf9_00082『いつでもこの世は大霊界!』1991)
- 15) 三人は再び声をあわせて笑った。彼女たちは、ぼくが若いせい、それとも貫禄がないせい、唐木女史や高橋医師に対するときとは全然(zenzen)、態度がちがう。仲間みみたいな口をきいたり、時にはぼくをからかってよるこんだりもするのだ。 (OB1X_00125『凍河』1976)
- 16) 「木村さんが知りあいでってことを隠している様子はありませんでしたか?」「いやいや、だから全然(zenzen)そんな風じゃないって」横山はいった。 (LBi9_00073『アナザヘヴン上』1997)
- 17) 「あの一ほら、何だか上で捜してたって。受付頼んだ人…。何てったかね」「ああ、分かったわ。行くから」こういう細かいことにかけては、母は全然(zenzen)だめである。 (LBd9_00156『人形たちの椅子』1989)

‘全然(zenzen)’と呼応する述語の形式を、<表4>の‘省略’を除き、否定形の場合と肯定形の場合とに分類すると、<表4-1>のようにまとめることができる。<表4-1>から、‘全然(zenzen)’と呼応する述語は、否定形の場合は610例(74.6%)であり、肯定形の場合は208例(25.4%)であることが分かる。

<表4-1> ‘全然(zenzen)’と呼応する述語の肯・否定形

	否定形	肯定形	合計
頻度	610	208	818
比率	74.6%	25.4%	100.0%

一方、‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の形式は、<表5>のようにまとめことができる。

<表5>から、‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の形式は、否定形の場合は506例(73.1%)であり、肯定形の場合は187例(26.9%)であることが分かる。

<表5> ‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語⁸⁾

	否定形	肯定形	合計
頻度	506	187	693
比率	73.1%	26.9%	100.0%

以上の<表4-1>と<表5>から、‘全然(zenzen)’と呼応する述語の形式は、否定形の場合は74.6%、肯定形の場合は25.4%が現れ、‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の形式は、否定形の場合は73.1%、肯定形の場合は26.9%が現れていて、両副詞の出現傾向は非常に似ていることが分かる。つまり、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語形式から、類似度が高いことが明らかになった。そして、肯定形の場合より否定形の場合とより呼応度が高いことが両副詞の共通点であると言えよう。

4.3 呼応する述語の種類

ここでは、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の種類について分析する。まず、‘全然(zenzen)’と呼応する述語の種類を出現の高い順に並べると、<表6>のようにまとめられる。

<表6> ‘全然(zenzen)’と呼応する述語の種類

順位	述語の種類	頻度	比率
1	名詞+ない	104	12.7%
2	違う	96	11.3%
3	分からない	56	6.8%
4	名詞+しない	51	6.2%
5	知らない	32	3.9%
6	‘別’から始まる名詞	28	3.4%
7	名詞+ではない	21	2.6%

8) <表5>は金(2014:165)の<表8-1>を引用したものである。

8	駄目	19	2.3%
9	名詞+にならない	15	1.8%
10	平凡だ、平気だ	14	1.7%
11	見えない	12	1.5%
12	考えない、聞こえない、付かない	(11 * 3)33	4.0%
13	出ない、気付かない、変わらない	(8 * 3)24	2.9%
14	似合わない、思わない、できない、関係ない、そんなことない	(7 * 5)35	4.3%
15	覚えてない	6	0.7%
17	信じられない、似てない、行っていない、感じない、いない、痛くない	(5 * 6)30	3.7%
18	食べられない、起きない、怖くない、入っていない、動かない、大丈夫だ、無理だ、	(4 * 7)35	4.3%
19	言わない、良くない、面白くない、話さない、飛べない、読まない、いい	(3 * 7)21	2.6%
20	余裕だ、OKだ、足りない、乗らない、出さない、取れない、取り合ってくれない、示さない、持っていない、似ても似つかない、使えない、困らない、会っていない、好きじゃない、悪くない、興味ない、眠れない、売れてない、憶えていない、汚れていない、違うじゃない、持てない、くみとれない、きてくれない、聞かない、可愛い	(2 * 26)52	6.4%
21	(以下 省略)	(1 * 134)134	16.4%
	合計	818	100.0%

<表6>のように、‘全然(zenzen)’と呼応する述語のうち、一番多く現れるのは、18)のように‘名詞+ない’で、19)のように‘違う’、20)のように‘分からない’、21)のように‘名詞+しない’、22)のように‘知らない’の順である。

18) 重政(心配さうに)帝一君はまるで情慾に興味がないといふ風にきこえますな、あんたの言ふことをきいてると。額間(はつきりと)あの子には性慾といふものが全然(zenzen)ないんです。
(PB29_00679『三島由紀夫全集』2002)

19) フフ。パパの話はすごく面白いよ。私の知らないことばかり話してくれるの。ママとは全然(zenzen)違う。ちょっとエッチだけど…でもスケベっぽくないから許してるの。いまはパパとは良好な関係よ」と淳子ちゃんは早口でしゃべり終わると少しの間沈黙した。
(LBo9_00214『人の気も知らないで』2000)

20) 「ご主人も、この手紙を見てはいるんですか?」「いいえ。封がしてなかったから、まずわたしが読んだの。昼間でひとりきりだったし、中身がなんなのか、ぜんぜん(zenzen)わからな

かったから」

(LBn9_00050『東京大學殺人事件』1999)

- 21) 「ちょっと待ってください。もしかして、妹さんに早くボクのことだけを見つめるようになって欲しいからですか」「そうよ。みーちゃんも、木葉クンとは結婚してもいいって言ったのに、ぜんぜん(zenzen)進展しないから」

(LBq9_00083『東京奇譚集』2005)

- 22) 「わたしを騙して、あなた楽しかった?」「なにを言ってるんだ」「こんなことわたしは全然(zenzen)知らなかったから、思い通りに妻が騙されて、あんたはいい気分だったんでしょね」

(LBo9_00234『腐蝕帯』2000)

また、呼応する述語が肯定形である場合、2位の‘違う’、6位の‘別から始まる名詞’、8位の‘駄目’、10位の‘平気だ’、‘平凡だ’などがある。6位の‘別から始まる名詞’の場合は、

- 23) もっとぜんぜん(zenzen)別の原因によるモヤモヤした疑念が、心理のずーっと深いところで見え隠れしているような苛立たしさであった。

(LBd9_00031『菊池伝説殺人事件』1989)

のような形で、この他に、‘別な男’‘別のこと’‘別の世界’‘別の所’‘別な国’などがある。さらに、10位の‘平気だ’、‘平凡だ’とは、

- 24) ワタクシは全然(zenzen)平気ですわ。

(PB19_00221『天使のプレゼント』2001)

のような形である。

一方、‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の種類と出現傾向は、<表7>のようにまとめられる。

<表7> ‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の種類)

順位	述語	頻度	比率
1	名詞+없다	177	25.5%
2	하지 않다	89	12.8%
3	다르다	82	11.8%
4	모르다	38	5.5%
5	名詞+아니다	29	4.2%
6	되지 않다	20	2.9%

9) <表7>は 金(2014:167-168)の<表10>を引用したものである。

7	보이지 않다	30	4.3%
8	느끼지 않다	14	2.0%
9	뜻밖	11	1.6%
10	名詞+이다, 動詞+하다	(9*2)18	2.6%
11	나지 않다, 어울리지 않다	(8*2)16	2.4%
12	그렇지 않다, 새롭다	(7*2)14	2.0%
13	들리지 않다, 채지 않다, 판	(6*3)18	2.7%
14	같지 않다, 듣지 않다, 쓰지 않다	(5*3)15	2.1%
15	가지 않다, 느껴지지 않다, 들리지 않다, 낫설다	(4*4)16	2.4%
16	나타나지 않다, 드러나지 않다, 받지 않다, 알지 않다, 멀다, 엉뚱하다, 색다르다	(3*7)21	2.8%
17	대지 않다. 묻지 않다, 믿지 않다, 알아듣지 않다, 어렵지 않다, 오지 않다, 名詞+이지 않다, 통하지 않다, 얼토당토않다, 움직이지 않다	(2*10)20	2.9%
18	가당하지 않다, 가지지 않다, 갖추지 않다, 두지 않다, 두려워하지 않다, 드러내지 않다, 들어오지 않다, 들어있지 않다, 따뜻해지지 않다, 때지 않다, 떠오르지 않다, 뜻하지 않다, 맞지 않다, 말지 않다, 먹혀들지 않다, 무겁지 않다, 배지 않다, 버리지 않다, 변하지 않다, 부리지 않다, 비싸지 않다, 사로잡히지 않다, 새 나가지 않다, 생기지 않다	(1*24)24	3.5%
	(他、省略)	(1*41)41	5.9%
	合計	693	100.0%

‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語のうち一番多く現れるのは‘名詞+없다(ない)’であり、その次は、‘하지 않다(しない)’‘다르다(違う)’‘모르다(知らない)’‘名詞+되지 않다(ならない)’の順である。

<表7>の呼応する述語の種類と<表6>の出現傾向とを比べてみると、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語のうち、高頻度で現れる述語の種類が似ていることは非常に興味深い。そして、‘全然(zenzen)’における‘名詞+ない’と‘전혀(cheonhyeo)’における‘名詞+없다(ない)’の場合、出現比率が12.7%、25.5%で‘전혀(cheonhyeo)’がやや高い。また、‘全然(zenzen)’において、出現順位2位である‘違う’は11.3%、‘전혀(cheonhyeo)’において3位に現れた‘다르다(違う)’は11.8%が現れていて、両副詞の出現傾向が似ていることが分かる。さらに、‘全然(zenzen)’において、出現順位3位である‘分からない’は6.8%、‘전혀(cheonhyeo)’において4位である‘모르다(分からない)’は5.5%が現れた。このように呼応する述語の種類と現れる順位の近似さから、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’は、呼応する述

語の種類において、類似度の高い副詞であると言えよう。そして、両副詞と呼応する述語のうち、肯定形の種類は、‘全然(zenzen)’の場合は‘違う’‘別’‘駄目だ’‘平気だ’‘無理だ’、‘전혀(cheonhyeo)’の場合は‘다르다’‘뜻밖’‘새롭다’‘딴’などが現れ、‘違う’と‘別’以外は共通性が高い。

以上のような対照分析から、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’は、文体の差からは、‘全然(zenzen)’が‘전혀(cheonhyeo)’より会話的であるということが分かったが、呼応する述語形式においては否定形と呼応する点で類似しており、述語の種類においても呼応する述語の順が非常に類似していることから、両副詞は、意味特徴と働きにおいて、類似度が高い副詞であると言える。

5. まとめ

本稿は、対照研究の立場から‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’について、類似点と相違点を明らかにすることを目的とし、文体の差、呼応する述語形式と述語の種類について対照分析を行った。分析の結果、明らかになったことは以下の通りである。

まず、文体の差に関する分析では、ジャンルにおける出現傾向と‘文学’における‘地の文’と‘会話文’での出現傾向から、‘全然(zenzen)’は会話文に58.9%、‘전혀(cheonhyeo)’は会話文に11.0%が現れ、‘全然(zenzen)’の方が‘전혀(cheonhyeo)’に比べて、より話し言葉的であることが明らかになった。そして、呼応する述語形式に関する分析では、‘全然(zenzen)’と呼応する否定形が74.6%、‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する否定形が73.1%が現れ、両副詞とも肯定形より否定形との呼応度が高く、呼応における比率も非常に類似していることが分かった。また、呼応する述語の種類に関する分析では、‘全然(zenzen)’に一番多く現れるのは‘名詞+ない’(12.7%)で、‘전혀(cheonhyeo)’に一番多く現れるのは‘名詞+없다’(25.5%)であり、‘全然(zenzen)’において出現順位2位の‘違う’は11.3%、‘전혀(cheonhyeo)’において出現順位3位の‘다르다’は11.8%が現れ、‘全然(zenzen)’において出現順位3位の‘分からない’は6.8%、‘전혀(cheonhyeo)’において出現順位4位の‘모르다’は5.5%が現れた。呼応する述語の種類と出現順位の近似は‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’の意味特徴と働きにおける類似性を証明していると言える。

以上のように、‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’は文体の差はあるものの、類似度が高

い副詞であるということが分かった。今後、‘さっぱり(sappari)’とも合わせて対照分析を行い、日本語の表現教育に適用できることを願う。

【参考文献】

- 徐正洙(1996)『国語文法』漢陽大学出版社
- 양지혜(2008)『韓・日 両言語의 副詞에 関한 考察 : ‘ぜんぜん(全然(zenzen))’과 ‘전혀(cheonhyeo)’의 意味・用法을 中心으로』仁川大学校 教育大学院 碩士學位論文
- 石綿敏雄・高田 誠(1990)『対照言語学』(株)桜楓社
- 梅林博人(1995)「『全然(zenzen)』の用法に関する規範意識について」『人文学報』No.266, 東京都立大学人文学部
- 金慶恵(2014)「日本語と韓国語の副詞の対照研究—‘전혀(cheonhyeo)’と‘さっぱり(sappari)’を中心に—」『日本語文化』第29집, 韓国日本言語文化学会
- 佐野真一郎(2012)「『日本語話し言葉コーパス』を用いた『全然(zenzen)』の変化の詳細化」『コーパス日本語学ワークショップ予稿集』国立国語研究所
- 丁允英(2005)「文末に否定表現を伴う副詞について」『早稲田日本語研究』13, 早稲田大学日本語学会
- 丁允英(2008)「否定構文における否定副詞の考察」『學術国語・国文学報』第56号, 早稲田大学教育会
- 増井典夫(1996)「否定と呼応する副詞と程度副詞についての覚書」『愛知淑徳大学現代社会部論集』愛知淑徳大学現代社会学部
- 服部匡(2007)「大規模コーパスを用いた『全然(zenzen)』の共起特性の調査—朝日新聞とYahoo!知恵袋の比較—」『同志社女子大学 学習研究年報』第58巻
- 小学館国語辞典編集部(2001)『日本国語大辞典第二版』小学館
- 大阪外国語大学朝鮮語研究室(編)昭和61『朝鮮語大辞典』角川書店
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店

논문투고일 : 2015년 09월 10일
 심사개시일 : 2015년 09월 20일
 1차 수정일 : 2015년 10월 08일
 2차 수정일 : 2015년 10월 14일
 게재확정일 : 2015년 10월 19일

 <要旨>

日本語と韓国語の副詞の対照研究

- ‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’を中心に -

本稿は、日本語と韓国語の副詞‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’を対照分析し、類似点と相違点を明らかにすることを目的とするものである。

BCCWJと말뭉치(malmungchi)の資料から‘地の文’と‘会話文’の出現から‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’の文体の差を見ると、‘全然(zenzen)’は‘会話文’に58.9%が現れ、11.0%が現れた‘전혀(cheonhyeo)’に比べて出現頻度が高いことから、‘全然(zenzen)’はより話し言葉的で、‘전혀(cheonhyeo)’はより書き言葉的であると言える。逐語訳が可能である場合でも文体の相違はあり得るということである。呼応する述語の品詞は、否定形の場合も肯定形の場合も、後に来る品詞が、動詞、名詞、形容詞の順で現れる。そして、呼応する述語形式は、‘全然(zenzen)’と呼応する述語が否定形の場合は610例(74.6%)、肯定形の場合は208例(25.4%)であり、‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語が否定形の場合は506例(73.1%)、肯定形の場合は187例(26.9%)で、出現傾向が非常に似ている。‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’と呼応する述語の種類も、‘全然(zenzen)’と呼応する述語として一番多く現れるのは‘名詞+ない’で、‘違う’‘分からない’‘名詞+しない’‘知らない’の順であり、‘전혀(cheonhyeo)’の場合に一番多く現れるのは‘名詞+없다(ない)’で、‘하지 않다’‘다르다’‘모르다’‘名詞+되지 않다’の順であることから、呼応する述語順が似ていることが分かる。‘全然(zenzen)’と‘전혀(cheonhyeo)’は、意味用法において類似していて、肯定形より否定形とより呼応度が高いことでも共通している。また、否定形と呼応する述語の出現傾向も類似度が高く、呼応する述語の種類順位の近似さからも類似度の高いことが確認できる。

Contrast of Adverbs in Japanese and Korean Languages

- With emphasis on ‘全然(zenzen)’, ‘전혀(cheonhyeo)’ -

The purpose of this study is to contrast and analyze 「zenzen」 and 「cheonhyeo」, the adverbs of Japanese and Korean languages.

Comparing the use of 「zenzen」 and 「cheonhyeo」 in the 「literary styles」 and 「colloquial styles」 of BCCWJ and malmungchi, 58.9% of 「zenzen」 was used in 「colloquial styles」. As only 11.0% of 「cheonhyeo」 was used in colloquial styles, it was concluded that 「zenzen」 is colloquial and 「cheonhyeo」 is literary. In other words, even when literal translation is possible, there could be a difference in the writing style. Also, the parts of speech of predicates in the form of negation or affirmation were sequence of verbs, nouns, and adjectives. Considering the form of expression of correspondence, the predicates that correspond with 「zenzen」 showed 610 (74.6%) examples in negation and 208 (25.4%) examples in affirmation, while those that correspond with 「cheonhyeo」 showed 506 (73.1%) examples in negation and 187 (26.9%) examples in affirmation. Therefore, the two adverbs were very similar. Considering the types of predicates that correspond with 「zenzen」 and 「cheonhyeo」, the predicates that are most often used with 「zenzen」 are in the form of 「NOUN+nai」, followed by 「chigau」, 「wakaranai」, 「NOUN+shinai」, and 「shiranai」. The predicates that are most often used with 「cheonhyeo」 are in the form of 「NOUN+ouptta」, followed by 「haji anta」, 「taruda」, 「moruda」, and 「NOUN+toeji anta」, showing that the order of correspondence was also similar. In sum, it was concluded that 「zenzen」 and 「cheonhyeo」 have similar semantic use and are commonly more corresponded with negation rather than affirmation. Also, the tendency of predicates that correspond with negation is also similar, considering the order of predicates that correspond.